

此太后は淳和帝の后なり、三代実録曰、橘太后諱は正子、嵯峨天皇の長女、仁明大皇と同腹なり、太后は姿顔美麗にして礼度あり、承和七年五月淳和帝崩じ給ひて後、皇太后落髮して尼となる。同九年嵯峨太上天皇崩ず。皇太子■に讒に遭て淳和院に蟄居し給ふ。貞観二年五月淳和院に於て諸寺の名僧を延て法華を講さしめ、財宝を施して大齋会を設く、又延暦寺の座主円仁大阿闍梨をして菩薩戒をうけ、法名を良祚と称す、元慶三年三月廿三日薨ず。此皇后慈仁天至なり、東西両京の棄児孤孩を拾ひ収め、これに乳母を給ひ養育なさしめ給ふ。又嵯峨の故宮を精舎とし、大覚寺となづく。此側らに済治院を建て僧尼の病者を療す、淳和院を以て道場となす。(卷三十五五丁目) 又曰、天長十年二月廿八日乙酉、天皇淳和院に遷御ましまして御位を皇太子に譲り給ふ。(同卷十四丁)

西院の後、御ぐしおろさせたまひておこなはせ給ひけるとき、

彼院の中島松をけづりかき付侍ける

後撰集

おとに聞松がうら島けふぞ見るむべも心あるあまは住けり

素性法師

〔此所其後源氏の公卿の学室とす、故に源氏の長者たる人、当院の別当に補せらる。後小松院御宇永徳三年の春、鹿苑院義満公左大臣にて淳和■学両院の別当を兼帯したまへり。これより此号あつて、永く源氏の公卿、大中納言に及び大臣も此任を兼帯せらるゝなり〕

春日社かすがのやしろ〔西院村さいゐんの北のかた林の中にあり。いにしへは神祇官かすがにあり、故に神祇官春日社かすがと称す。土人産沙神どじんうぶすなじんとす。

例祭は九月九日なり、神輿かみこ二基〕

住吉社すみやしのやしろ〔同村西のかた南半町ばかりにあり。此ほとりいにしへ伽藍ありて、当社は即鎮守なり、地の字を寺の内と

いふ、六月廿八日御祓あり〕

日照山高山寺にっせうさんかうさんじ〔西院村東の入口にあり〕浄土宗にして、本尊は子安地藏菩薩、恵心ゑしんの作なり。初は山嶽横川さんかくよかはに安

置し給ひしが、恵心ゑしん入寂の後志賀里木村成近尊信しがのさとときむらなりちかそんしんしてこれを家に安置す、其後逆乱に罹て此尊像を抱き、北国ほつこくさして落

行しが、遂に江州堅田かただの傍田中の平林に棄置けり、夫より此所夜毎に光明赫奕として白日の如し、村人これを奇なりと

して尋ね見るに、地藏尊ちざうそんを得たり。即ち小堂を営みて田中の地藏尊と称す。其頃文永年中、堅田住人名村小太夫重俊夫かただのちうにんなむら

婦、子のなき事を愁て此尊像に祈誓しければ、忽ち妊娠の身に成、月満て男子を産り、是より子安こやすの尊像と号す。又暦

応の頃、足利尊氏將軍御帰依ありて、洛の西今の地に遷仏仰付られ、洛陽六体地藏巡りの其一尊となし給ふ。〔第一壬

生寺ぶでら、第二当寺たうじ、第三蓮台野地藏尊れんだいのちざうそん、第四川崎清和院かはさきせいわ、第五祇陀林寺ぎだりん、第六鳥辺野宝積寺とりべのはうしやく、此六ヶ所なり〕又其後

東山殿ひがしやまどの、〔義政公よしまさひ〕も御信仰ありて、北の方御平産の験あり。それより累年此地に安置して靈応ますます隆なり。冠石、

〔当寺本堂の前鎮守の傍にあり。高サ六尺余、冠の形をなす〕揉松、〔本堂の後庭上にあり、枝葉壯麗にして比類なし、松を好むものこゝにたづね来り美賞する事多し。又樹家これを見て規範とするなり〕

秀伝庵

〔同村春日社の巽にあり。禅宗にして妙心寺大光院の隠居所なり。本尊阿弥陀仏、恵心の作なり。開山は

定嶽和尚、昭和八年に寂す。

宗円寺

〔同村街道の南一町にあり。本尊聖観音にして禅宗黄檗派なり。開基は独湛和尚、中興法源和尚なり。門の

額宗円寺は独湛の筆なり。当寺の什宝に霰釜一口あり、後水尾院の御寄附なり。両の環黄金にして霰はみな銀を以て樹

たり。稀代の名器なり〕